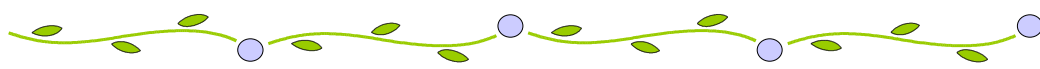


市川を調べる

編集 市川を調べる会(会長・星 一郎/事務局・木村隆一)

発行 八戸市立 市川公民館 (館長 氣田 武男)



「桔梗野」の移り変わり(1)

桔梗野 千葉 謙一

I. 〈桔梗野の歴史への登場〉

私たちの住む桔梗野地区は、江戸時代の寛文4年(1664)、南部藩が8万石の盛岡藩と2万石の八戸南部藩に分かれた時、盛岡南部藩五戸代官所領地の**下市川村**になり、藩境を決める境界のあったのが桔梗野地区です。

藩境塚跡は三菱製紙にある「黒森」以外は見られませんが、そこからの延長線は三菱製紙の敷地から陸上自衛隊演習場や、八戸駐屯地の建物の中を通り、松ヶ丘のバス停付近まで、ほぼ直線だったようです。

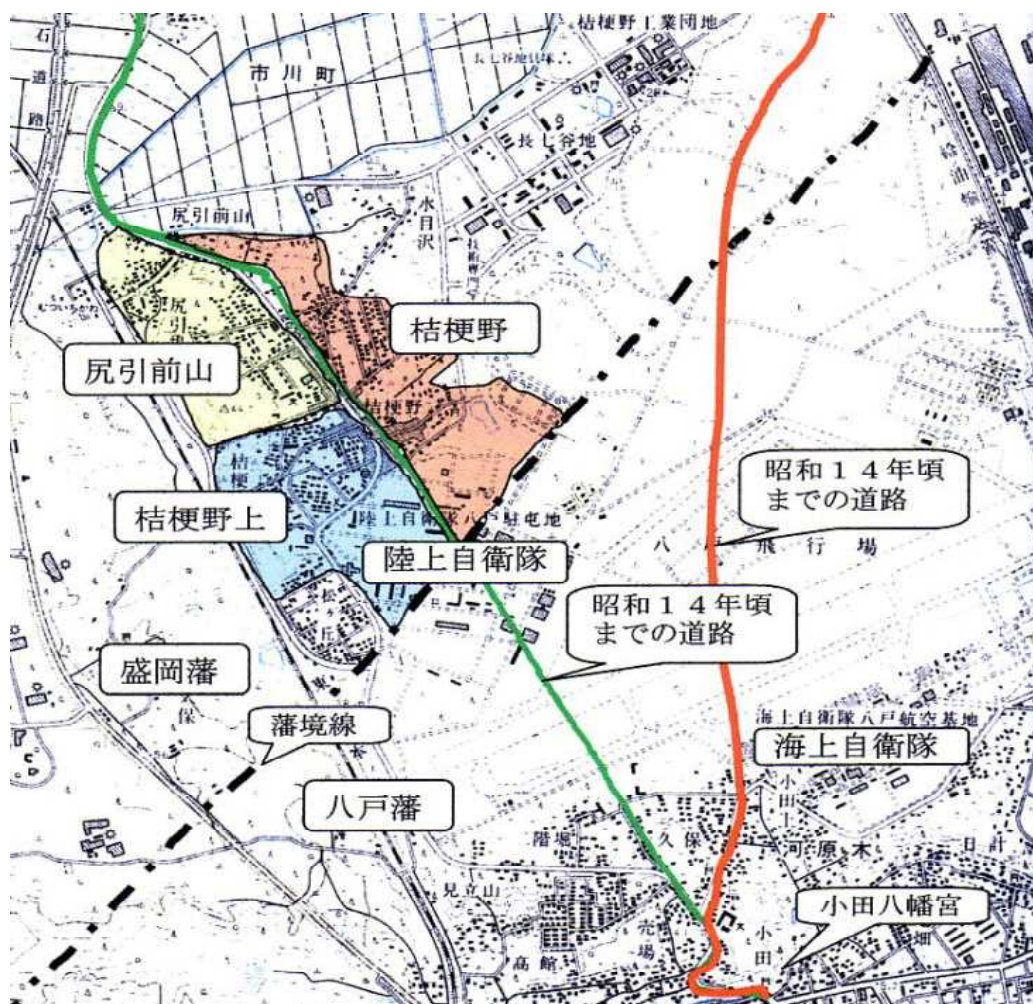
江戸期の中頃までは桔梗野・水目沢の様子や集落の存在は確認できませんが、明治初年に青森県が発行した「新撰陸奥国誌」によると、**桔梗野12戸・水目沢3戸**の集落名が出てきます。また明治6年の「陸奥国三戸郡村誌」では、「桔梗野岡陵(丘陵)の間数所に散在人煙14戸」と紹介されております。

II. 〈水目沢から桔梗野へ〉

桔梗野は戦前戦後を通じて「水目沢」…(ミズメジャ・ネズミジャ)と呼ばれておりましたが、昭和30年に八戸市へ合併したことを契機にして広く**桔梗野**と呼称されるようになりました。

尚、水目沢の**水目**とは「水のある所の境」を意味します。

現在の桔梗野郵便局は、昭和18年に「**水目沢郵便局**」として開局し、昭和31年に「**桔梗野郵便局**」と改名いたしました。↗



↗ また、現在の桔梗野小学校は昭和23年に「**三戸郡市川村立轟木小学校水目沢分校**」として、尻引前山の旧軍施設跡(現在地)に開校致しました。学年は1~3学年の1学級のみで、児童数は50名でした。その後、昭和26年の1月29日には「**桔梗野小学校**」と校名を改め児童数132名をもって新しくスタートしました。(以下、次号へ)

* 資料:「新撰陸奥国誌」「陸奥国三戸郡村誌」「青森県地名大辞典」「三戸郡河原木村繪圖」「八戸市史-近世資料集 I・II」「八戸市桔梗野地区防犯協会創立50周年記念誌」 * 文と地図作成 千葉 謙一